

- ウム. 東京都 (2011年4月).
85. 浅川明弘, 乾明夫. 悪液質の研究
と臨床の展開 Parathyroid
hormone-related proteinの摂食抑
制作用. 第84回日本内分泌学会.
神戸市 (2011年4月).
 86. 乾明夫. 消化管ペプチドによる食
欲・体重調節. 第23回糖尿病と血
管合併症 up to date. 西宮市
(2011年6月).
 87. 浅川明弘, 乾明夫. 摂食障害研究
の新たな展開 —末梢における摂
食調節ペプチドからのアプロー
チ—. 第52回日本心身医学会総会.
横浜市 (2011年6月).
 88. 乾明夫. 悪液質治療における漢方
の意義 —六君子湯を中心に—.
第15回日本摂食障害学会. 鹿児島
市 (2011年9月).
 89. 乾明夫. 漢方の先端研究、特に悪
液質における六君子湯の作用を
中心に. 第12回八ヶ岳シンポジウ
ム. 東京都 (2011年9月).
 90. 乾明夫. 脳腸相関と摂食行動 —
肥満と鏡像関係をなす悪液質病
態を中心に—. 第32回日本肥満学
会総会. 神戸市 (2011年9月).
 91. 乾明夫. 漢方の先端研究 —空腹
ホルモングレリンに対する六君
子湯のデュアルアクションと悪
液質への応用を中心に—. 第27回
耳鼻咽喉科漢方研究会. 東京都
(2011年10月).
 92. Inui A. Ghrelin and energy
homeostasis focused on cancer
anorexia-cachexia syndrome. The
9th International Symposium on
Growth and Nutrition in Children
with Chronic Kidney Diseases. San
Diego, USA (2012年4月).
 93. 蔡明倫, 浅川明弘, 網谷真理恵,
春田いづみ, 網谷東方, 上園保仁,
山口武人, 新島旭, 矢田俊彦, 乾
明夫. 六君子湯によるグレリンシ
グナル増強と膵癌患者の生存期
間延長効果. 第109回日本内科学
会総会・講演会. 京都市 (2012年4
月).
 94. 浅川明弘, 上園保仁, 藤宮峯子,
矢田俊彦, 新島旭, 乾明夫. シン
ポジウム2 悪液質の進歩 癌性悪
液質におけるグレリンシグナル
の臨床応用の可能性. 第53回日本
心身医学会. 鹿児島市 (2012年5
月).
 95. 乾明夫. 『経験』から『科学』へ —
明らかになってきた漢方の作用
メカニズム—. 第2回市民公開セ
ミナー「がんと漢方薬」のこと 漢
方薬の現状とこれから. 東京
(2012年6月).
 96. 乾明夫. 悪液質の最近の進歩 —
空腹ホルモングレリン—漢方薬
六君子湯を中心に—. 独立行政法
人産業技術総合研究所 第2回健
康工学科学部門研究会. 淡路市
(2012年9月).
 97. 乾明夫. 悪液質の最近の進歩 (特
別講演). 第3回新潟がん栄養療法
研究会. 新潟市 (2012年10月).
 98. 浅川明弘, 山口武人, 乾明夫. グ
レリンシグナルの増強は癌性悪
液質を改善する. 第54回日本消化
器病学会. 神戸市 (2012年10月).
 99. 乾明夫. がん悪液質の最近の進歩.
第36回日本死の臨床研究会. 京都
市 (2012年11月).
 100. 乾明夫. 癌の緩和医療と漢方. 第
19回岐阜東洋医学研究会. 岐阜
(2013年1月).
 101. 乾明夫. 死の生理学に関するエビ

- デンスー食の立場からー 第18回日本緩和医療学会学術大会ランチョンセミナー. 横浜 (2013年6月).
102. 乾明夫. 緩和医療と漢方薬ーエビデンスを中心にー. 第22回ひむか東洋医学会学術講演会. 宮崎 (2013年11月).
103. 乾明夫. 悪液質のトピックスー癌を中心にー. 第18回日本心療内科学会総会. 名古屋 (2013年12月).
104. 乾明夫. がん悪液質と食欲調節ホルモン. 第51回日本癌治療学会シンポジウム. 京都 (2013年10月).
105. 乾明夫. がん悪液質の病態と治療 Cross Cancer Research Symposium 2013. 東京 (2013年11月).
106. Asakawa A, Fujitsuka N, Uezono Y, Minami K, Yamaguchi T, Nijima A, Yada T, Maejima Y, Sedbazar U, Sakai T, Hattori T, Kase Y, Inui A. The herbal medicine rikkunshito in cancer anorexia-cachexia: impact on survival and relationship to ghrelin signaling. 7th Cachexia Conference. Kobe (2013年12月).
107. 上田陽一. 食思不振-悪液質動物モデルにおける視床下部神経ペプチドの反応. 第87回日本生理学会大会シンポジウム, 盛岡 (2010年5月).
108. 藤原広明, 川崎展, 石倉透, 上田陽一. 急性および慢性炎症時のラット下垂体後葉における galanin-like peptide 遺伝子の発現誘導: 炎症性サイトカインの関与. 第75回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 北九州 (2010年6月).
109. 鈴木仁士, 石倉透, 藤原広明, 上田陽一. 関節炎モデルラットおよび担癌ラットにおける視床下部摂食関連ペプチド遺伝子発現についての検討. 第75回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会, 北九州 (2010年6月).
110. 横山徹, 寺脇潔, 南浩一郎, 柳原五吉, 上田陽一, 上園保仁. がん悪液質モデルラットでは視索上核大細胞性ニューロンでの浸透圧感受性が変化している. 第70回日本癌学会学術総会. 名古屋市 (2011年10月).
111. 橋本弘史, 吉村充弘, 石倉透, 藤原広明, 上園保仁, 上田陽一. コレシストキニンおよびアポモルフィン末梢投与によるラット室傍核における *c-fos* mRNA 発現の検討. 第89回日本生理学会大会. 松本市 (2012年3月).
112. 横山徹, 寺脇潔, 南浩一郎, 柳原五吉, 上園保仁, 上田陽一. がん悪液質モデルラットでは視索上核大細胞性神経分泌細胞での浸透圧感受性が変化している. 第89回日本生理学会大会. 松本市 (2012年3月).
113. 上田陽一. 悪液質モデル動物における視床下部摂食関連ペプチドの動態. 第53回日本心身医学会総会ならびに学術講演会シンポジウム. 鹿児島市 (2012年5月).
114. 上田陽一, 吉村充弘, 橋本弘史, 石倉透, 横山徹, 上園保仁. シスプラチン投与におけるラット摂食抑制反応に対する六君子湯の胃内投与効果. 第71回日本癌学会学術総会. 札幌市 (2012年9月).
115. Ueta Y. Drinking and feeding behavior based on peptides and TRP

- channels. The 3rd International Symposium of KoSCI & the 2nd AISCRIB. Korea (2012年11月).
116. 上田陽一, 吉村充弘, 橋本弘史. 抗がん剤シスプラチン投与によるラット摂食抑制作用～視床下部関連ペプチドによる検討～. 第23回日本病態生理学学会大会. 東京 (2013年8月).
 117. 上田陽一, 吉村充弘, 森昌朋. 脱水誘発性摂食抑制反応に関する分子機構: 第18回アディポサイエンス・シンポジウム. 大阪 (2013年8月).
 118. 上田陽一, 橋本弘史, 横山徹, 上園保仁. シスプラチン誘発拒食ラットの摂食およびグレリン分泌に対する六君子湯の作用. 第72回日本癌学会学術総会. 横浜 (2013年10月).
 119. 萩本真理奈, 吉村充弘, 松浦孝紀, 大久保淳一, 大野素子, 丸山崇, 石倉透, 橋本弘史, 加隈哲也, 吉松博信, 寺脇潔, 上園保仁, 豊平由美子, 柳原延章, 上田陽一. 視床下部セロトニン枯渇モデルラットにおける摂食関連ペプチド遺伝子発現の変化. 第64回西日本生理学学会. 北九州 (2013年10月).
 120. 吉村充弘, 松浦孝紀, 大久保淳一, 丸山崇, 橋本弘史, 加隈哲也, 吉松博信, 森昌朋, 上田陽一. 脱水誘発性摂食抑制反応に対する Nesfatin-1/NucB2の役割. 第40回日本神経内分泌学会学術集会・第38回日本比較内分泌学会大会合同大会. 宮崎 (2013年10月).
 121. Yoshimura M, Matsuura T, Ohkubo J, Ohno M, Maruyama T, Ishikura T, Kakuma T, Yoshimatsu H, Mori M, Ueta Y. Nesfatin-1/NucB2 is a crucial peptide in dehydration-induced anorexia in rats. 10th World Congress on Neurohypophysial Hormones. Bristol, England (2013年7月).
 122. Yoshimura M, Matsuura T, Ohkubo J, Ohno M, Ishikura T, Kakuma T, Yoshimatsu H, Mori M, Ueta Y. Nesfatin-1/NucB2 is a crucial peptide in dehydration-induced anorexia in rats. The 36th Naito Conference on Molecular Aspects of Energy Balance and Feeding Behavior. Sapporo (2013年9月).
 123. Ueta Y, Yoshimura M, Uezono Y. Effects of oral administration of Rikkunshito on cisplatin-induced anorexia in rats. 7th Cachexia Conference. Kobe (2013年12月).
 124. 上田陽一, 吉村充弘, 橋本弘史, 將口加奈子, 横山徹, 上園保仁. セロトニン枯渇モデルラットにおけるシスプラチン誘発性拒食および六君子湯の胃内. 第73回日本癌学会学術総会. 横浜 (2014年9月).
 125. 塚田俊彦, 島津智子, 永村優央子, 寺脇潔, 上園保仁. 六君子湯はPC12細胞におけるcAMP依存性遺伝子発現を増強する. 第70回日本癌学会学術総会. 京都市 (2011年10月).
 126. 塚田俊彦, 永村優央子, 寺脇潔, 上園保仁. 六君子湯はPC12細胞におけるカテコラミン合成と分泌を促進する. 第71回日本癌学会総会. 札幌市 (2012年9月).
 127. Tsukada T, Nagamura Y, Terawaki K, Uezono Y. Cyclic AMP production is enhanced in pituitary cells by a traditional Japanese medicine rikkunshito. 第72回日本

- 癌学会総会.横浜 (2013年10月)
128. 藤宮峯子, 他. 消化管運動と脳腸
相関. 第16回日本行動医学会, 指
宿 (2010年2月).
 129. Fujimiya M, Tanaka R, Ataka K,
Atsuchi K, Asakawa A, Inui A. New
method of manometric measurement
of gastroduodenal motility in
conscious mice. Digestive Disease
Week(DDW) 2010, New Orleans
(2010年5月).
 130. 藤宮峯子. 視床下部ペプチドと脳
腸相関. 第14回GI Cell Biology研
究会, 千葉 (2010年6月).
 131. 藤宮峯子. 上部消化管運動と脳腸
相関. 第42回胃病態機能研究会,
札幌 (2010年8月).
 132. 藤宮峯子. グレリン、デスアシル
グレリン、オベスタチンによる上
部消化管運動の制御と脳腸相関.
第7回日本消化管学会. 京都市
(2011年2月).
 133. 藤宮峯子. 視床下部ペプチドと消
化管運動の機能相関. 第116回日
本解剖学会. 横浜市 (2011年3月
誌上開催).
 134. 藤宮峯子. 視床下部ペプチドと消
化管運動. 第15回日本摂食障害学
会. 鹿児島市 (2011年9月).
 135. 藤宮峯子. 骨髄由来ミクログリア
と脳腸相関. 第13回日本神経消化
器病学会. 宇都宮市 (2011年11月).
 136. 樋上賀一, 千葉卓哉, 下川功. 長
期カロリー制限 (CR) による抗
老化・寿命延長作用にはSREBP1c
が必要である. 第100回日本病理学
会総会. 横浜市 (2011年4月).
 137. 福島麻友美, 小島由美子, 林田雄
介, 湯口景子, 沖田直之, 中村愛,
戸田年総, 樋上賀一. カロリー制
限ラットにおけるミトコンドリ
アバイオジェネシスの経時的変
化. 第34回日本基礎老化学会. 東
京都 (2011年6月).
 138. 樋上賀一. カロリー制限ラットに
おけるミトコンドリアバイオジ
ェネシスの経時的変化. 第33回日
本基礎老化学会シンポジウム. 野
田市 (2011年10月).
 139. 樋上賀一. 脂肪酸合成関連転写因
子sterol regulatory element-binding
protein (SREBP)-1cは絶食耐性遺
伝子である. 第101回日本病理学
会総会. 東京 (2012年4月).
 140. 湯口景子, 土屋拓郎, 福島麻友美,
沖田直之, 戸田年総, 樋上賀一.
カロリー制限によるミトコンド
リアバイオジェネシスの経時的
変化. 第35回日本基礎老化学会大
会. 習志野 (2012年7月).
 141. 福永大地, 森秀一, 久保幸恵, 中
山亮, 村瀬尚哉, 宮崎剛, 樋上賀
一, 重本和宏. 老齢マウスの筋線
維タイプ特異的な筋萎縮の病態
解明. 第35回日本基礎老化学会大
会. 習志野 (2012年7月).
 142. 徳永雄紀, 三上健太郎, 沖田直之,
樋上賀一. 肥満における組織特異
的オートファジーの解析. 第35回
日本基礎老化学会大会. 習志野
(2012年7月).
 143. 大塚佑樹, 沖田直之, 寺脇潔, 上
園保仁, 樋上賀一. カロリー制限
とがん悪液質の白色脂肪細胞組
織における応答性の違い. 第56回
日本薬学会関東支部大会. 東京
(2012年10月).
 144. 武本佳那子, 三上健太郎, 沖田直
之, 樋上賀一. 脂肪酸が肝臓細胞
のオートファジーに及ぼす影響.
第56回日本薬学会関東支部大会.

- 東京 (2012年10月).
145. 石川菜摘, 奥美紗子, 永井恒, 鈴木裕規, 沖田直之, 樋上賀一. 脂肪細胞および筋細胞におけるがん抑制遺伝子p53を介したミトコンドリア制御. 第56回日本薬学会関東支部大会. 東京 (2012年10月).
146. 福永大地, 久保幸穂, 森秀一, 宮崎剛, 樋上賀一, 重本和宏. 老齢マウスを用いた加齢性筋萎縮の筋線維タイプ特異な筋病態の解析. 第35回日本分子生物学会年会. 福岡 (2012年12月).
147. 藤井波木, 沖田直之, 仲條良和, 小西智一, 成田匠, 樋上賀一. カロリー制限による成長ホルモン非依存的なラット白色脂肪組織のリモデリング. 第35回日本分子生物学会年会. 福岡 (2012年12月).
148. 水之江雄平, 三上健太郎, 沖田直之, 須藤結香, 樋上賀一. 脂肪細胞におけるオートファジーの役割. 第36回日本基礎老化学会大会. 大阪 (2013年6月).
149. 土屋拓郎, 沖田直之, 須藤結香, 樋上賀一. カロリー制限がミトコンドリアおよび脂質代謝に及ぼす影響の経時的解析. 第36回日本基礎老化学会大会. 大阪 (2013年6月).
150. 成田匠, 藤井波木, 沖田直之, 須藤結香, 樋上賀一. Srebp-1cはカロリー制限 (CR) による抗老化・寿命延伸効果に重要である. 第36回日本基礎老化学会大会. 大阪 (2013年6月).
151. 樋上賀一. 脂肪細胞におけるオートファジー. 第102回日本病理学会総会. 札幌 (2013年6月).
152. Mizunoe Y, Mikami K, Okita N, Narahara T, Negishi A, Yoshida M, Sudo Y, Higami Y. Autophagic flux is suppressed via ROS in differentiated and hypertrophic adipocytes. APDO Symposium 2013. Tokyo (2013年10月).
153. Fujii N, Okita N, Chujo Y, Narita T, Sakai M, Sudo Y, Higami Y. Srebp-1c is required for life-long caloric restriction-induced mitochondrial biogenesis in white adipose tissue of mice. APDO Symposium 2013. Tokyo (2013年10月).
154. 鈴木裕規, 永井亘, 沖田直之, 岡戸仁志, 田川亮真, 須藤結香, 樋上賀一. 新規肥満応答性E3ユビキチンリガーゼWWP1の脂肪細胞における機能解析. 第18回アディポサイエンスシンポジウム. 大阪 (2013年8月).
155. 樋上賀一, 藤井波木, 成田匠, 酒井将弘, 須藤結香, 沖田直之. カロリー制限によるSrebp-1cを介した代謝のリモデリング. 第18回アディポサイエンスシンポジウム. 大阪 (2013年8月).
156. 須藤結香, 水之江雄平, 三上健太郎, 奈良原誠大, 根岸亜梨沙, 吉田実樹, 沖田直之, 樋上賀一. オートファジーは脂肪細胞におけるアディポカイン分泌バランスを改善する. 第18回アディポサイエンスシンポジウム. 大阪 (2013年8月).
157. Kono T, Kaneko A, Matsumoto C, Hibino T, Shigenobu T, Fukutake M, Uezono Y. Amelioration of 5-fluorouracil-induced oral mucositis in hamsters by TJ-14 (Hangeshashinto), inhibitor of

- inducible prostaglandin E2 and proinflammatory cytokine. Digestive Disease Week 2012, San Diego, USA (2012年5月).
158. Kono T, Omiya Y, Kaneko A, Yamamoto M. Intraluminal TRPA1 agonists: an effective means to increase intestinal blood flow. Digestive Disease Week 2012, San Diego, USA (2012年5月).
159. Kono T, Kaneko A, Matsumoto C, Miyagi C, Ohbuchi K, Mizuhara Y, Miyano K, Uezono Y. Multi-target prevention of chemotherapy-induced oral mucositis by hangeshashinto: PGE2 and cell migration in human oral keratinocytes. Digestive Disease Week 2013. Orland, USA (2013年5月).
160. Kono T, Nishiyama M, Kaneko A, Yamamoto M, Ueno N, Kohgo Y, Uezono Y. Small intestinal microbiota of colonic IBD patients may have the altered gut microenvironment enabling selective enrichment of certain bacterial populations : Implications of microbiome analysis on ileal effluent samples collected from ileostomy patients. Digestive Disease Week 2013. Orlando, USA. (2013年5月).
161. Kubota K, Ohbuchi K, Sudo Y, Miyano K, Yamamoto M, Kono T, Uezono Y. Prokinetic effect via blocking of two-pore domain potassium channels (KCNKs): a novel mechanism of enhanced colonic motility by local anesthetics and a traditional Japanese medicine daikenchuto (TU-100). Digestive Disease Week 2013. Orlando, USA (2013年5月).
162. Ueno N, Musch MW, Kono T, Wang Y, Kaneko A, Omiya Y, Yamamoto M, Fujiya M, Uezono Y, Kohgo Y, Chang EB. Multitargeted treatment of Crohn's disease by traditional Japanese herbal medicine TU-100: an endogenous adrenomedullin enhancer. 37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences 2013. Birmingham, UK (2013年7月).
163. Kono T, Kaneko A, Nozaki R, Matsumoto C, Miyagi C, Ohbuchi K, Omiya Y, Mizuhara Y, Miyano K, Uezono Y. Multitargeted therapy of chemotherapy-induced oral mucositis by hangeshashinto (TJ-14), a multicomponent traditional Japanese herbal medicine: effect on prostanoid synthesis and cell migration. 37th World Congress of the International Union of Physiological Sciences 2013. Birmingham, UK (2013年7月)
164. 河野透, 久保田訓世, 山本雅浩, 上園保仁. Two-pore domainカリウムチャンネル (KCNKs) の腸管運動メカニズムへの関与 大建中湯の大腸運動亢進メカニズム. 第55回日本平滑筋学会総会. 旭川 (2013年8月).
165. 河野透. 漢方はオーケストラ 医療用漢方製剤の海外進出. 日本生薬学会第60回年会. 札幌 (2013年9月).
166. 河野透. がん化学療法に伴う末梢神経障害の発現機序とその対処法: 臨床研究と基礎研究の融合点. 第7回日本緩和医療薬学会年会. 千葉 (2013年9月).
167. Kono T, Kaneko A, Yamamoto M, Nozaki R, Kitagawa S, Takeda H. Administration of daikenchuto (TU-100), a traditional Japanese medicine, through a long tube

- ameliorates postoperative ileus via inhibition of prostaglandin E2. European Society of Coloproctology 2013. Belgrade, Serbia (2013年9月).
168. Kono T, Kaneko A, Omiya Y, Miyano K, Uezono Y. Traditional Japanese oral mucositis medicine hangeshashinto upregulates antimicrobial peptides in human salivary gland cells. 2014 Gastrointestinal Cancers Symposium. San Francisco, USA. (2014年1月).
169. Kono T, Kubota K, Ohbuchi K, Mase A, Sudo Y, Miyano K, Yamamoto M, Uezono Y. Hydroxy- α -sanshool evokes unique colonic migrating motor complex in rat proximal colon via blocking of a two-pore domain potassium channel, KCNK9, in myenteric neurons. Digestive Disease Week 2014, Chicago, USA (2014年5月).
170. 佐藤康史, 結城敏志, 中積宏之, 古川孝広, 成瀬宏仁, 棟方正樹, 梶浦新也, 高橋康雄, 久須美貴哉, 斎藤聡, 館山美樹, 中村路夫, 伊東重豪, 加藤淳二, 浅香正博, 小松嘉人. 切除不能進行結腸直腸癌に対するセツキシマブ使用症例のレトロスペクティブ調査 (HGCSG0901) KRAS status別の解析. 第96回日本消化器病学会, 新潟市 (2010年4月).
171. 宮城島拓人, 結城志, 小林良充, 久須美貴哉, 畑中一映, 渡邊豊, 加藤貴司, 小川浩平, 中村路夫, 武藤修一, 内田多久實, 山内純, 腰山達美, 加藤寛士, 浅香正博, 小松嘉人. 切除不能結腸直腸癌に対するBevacizumabの安全性および有用性を検討するレトロスペクティブ調査 レジメン別解析のアップデート報告 (HGCSG0801). 第96回日本消化器病学会, 新潟市 (2010年4月).
172. 武藤修一, 武田宏司, 浅香正博. 栄養素の違いと血漿グレリン濃度の変動について. 第96回日本消化器病学会, 新潟市 (2010年4月).
173. 小野尚子, 加藤元嗣, 浅香正博. H.pyloriと胃癌の基礎と臨床 H.pylori陰性胃癌の臨床病理学的検討. 第96回日本消化器病学会, 新潟市 (2010年4月).
174. 小松嘉人, 結城敏志, 久須美貴哉, 細川正夫, 高木智史, 畑中一映, 成瀬宏仁, 中積宏之, 竹内啓, 加藤寛士, 横山仁, 細川歩, 目黒高志, 堀田彰一, 浅香正博. 切除不能大腸癌に対するBevacizumab使用に関する調査(HGCSG0801) 年齢別の解析. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
175. 中村路夫, 結城敏志, 小林良充, 久須美貴哉, 細川正夫, 渡辺豊, 畑中一映, 上畠寧子, 武藤修一, 宮城島拓人, 西研, 細川歩, 加藤貴司, 浅香正博, 小松嘉人. 切除不能大腸癌に対するBevacizumab使用に関する調査(HGCSG0801) 全症例のアップデート. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
176. 曾我部進, 結城敏志, 久須美貴哉, 細川正夫, 渡辺豊, 畑中一映, 中村路夫, 工藤峰生, 山内純, 宮城島拓人, 月岡雄治, 上林実, 福島拓, 浅香正博, 小松嘉人. 切除不能大腸癌に対するBevacizumab使

- 用に関する調査(HGCSG0801) 継続使用例の解析. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
177. 藤川幸司, 結城敏志, 小林良充, 辻靖, 畑中一映, 棟方正樹, 高橋康雄, 月岡雄治, 久能健一, 高野眞寿, 上林実, 太田智之, 浅香正博, 小松嘉人. セツキシマブ使用例のレトロスペクティブ調査 (HGCSG0901) Cetuximab単剤使用例の解析. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
178. 川本泰之, 土原一哉, 吉野孝之, 小笠原直美, 小嶋基弘, 落合淳志, 坂東英明, 原浩樹, 布施望, 田原信, 土井俊彦, 大津敦, 浅香正博, 江角浩安. 大腸癌術後補助FOLFOX療法施行症例における化学療法前後のKRAS遺伝子変異一致率の検討. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
179. 石黒敦, 結城敏志, 曾我部進, 古川孝広, 畑中一映, 宮城島拓人, 武藤修一, 渡邊豊, 腰山達美, 加藤寛士, 奥田博介, 池田慎一郎, 棟方正樹, 浅香正博, 小松嘉人. セツキシマブ使用例のレトロスペクティブ調査(HGCSG0901) CPT-11+Cetuximab例の解析. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
180. 畑中一映, 結城敏志, 中積宏之, 辻靖, 成瀬宏仁, 棟方正樹, 小川浩平, 新谷直昭, 佐藤康史, 加藤貴司, 中村路夫, 伊東重豪, 竹内啓, 浅香正博, 小松嘉人. 切除不能結腸直腸癌に対するセツキシマブ使用例のレトロスペクティブ調 (HGCSG0901).第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
181. 中積宏之, 結城敏志, 曾我部進, 園田範和, 武藤修一, 高野眞寿, 工藤峰生, 加藤寛士, 小田寿, 宮城島拓人, 上林実, 目黒高志, 浅香正博, 小松嘉人. mFOLFOX6療法時の悪心・嘔吐に対する塩酸インジセトロン錠の至適投与法 (HGCSG 0703). 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市(2010年10月).
182. 結城敏志, 小松嘉人, 福島拓, 辻靖, 畑中一映, 棟方正樹, 細川歩, 高橋康雄, 久須美貴哉, 斎藤聡, 舘山美樹, 横山仁, 浅香正博. 分子標的治療におけるバイオマーカーの役割セツキシマブ使用症例のレトロスペクティブ調査 (HGCSG0901) KRAS status別の解析. 第48回日本癌治療学会学術集会, 京都市 (2010年10月).
183. 桂田武彦, 石忠明, 平山剛, 小林和夏, 浅香正博, 武田宏司. 消化態流動食(新ペプチーノ)における官能評価に関する調査. 第14回日本病態栄養学会年次集会, 横浜市 (2011年1月).
184. Ohnishi S, Takeda H, Muto S, Nakagawa K, Sadakane C, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, Asaka M. Influence of gender on peripheral ghrelin secretion. –Examination in the aging mice. Digestive Disease Week 2011. Chicago (2011年5月).
185. Ohnishi S, Takeda H, Muto S, Nakagawa K, Sadakane C, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, Asaka M. Potential new treatment to alleviate chemotherapy anorexia. Digestive

- Disease Week 2011. Chicago (2011年5月).
186. Muto S, Takeda H, Ohnishi S, Nakagawa K, Sadakane C, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, Asaka M. Ghrelin resistance in stressed female advanced-age mice. Digestive Disease Week 2011. Chicago (2011年5月).
187. Takeda H, Muto S, Oridate N, Ohnishi S, Nakagawa K, Sadakane C, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, Asaka M. Impaired gastric emptying in gastroesophageal reflux disease rat model is caused by a reduced response to ghrelin. Digestive Disease Week 2011. Chicago (2011年5月).
188. Muto S, Takeda H, Ohnishi S, Nakagawa K, Sadakane C, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, Asaka M. Novelty stress-induced anorexia is due to the decrease in the plasma ghrelin level via 5-HT1B/2C-melanocortin-4 system activation. Digestive Disease Week 2011. Chicago (2011年5月).
189. 大西俊介, 武藤修一, 武田宏司. 性差が末梢グレリン分泌に与える影響-老化マウスにおける検討-. 第98回日本消化器病学会総会ワークショップ. 東京 (2012年4月).
190. Ohnishi S, Takeda H, Muto S, Nakagawa K, Sadakane C, Nahata M, Saegusa Y, Hattori T, Asaka M. A study on gender differences in feeding behavior and plasma acyl ghrelin levels in aged mice following exposure to a novel environmental stress. Digestive Disease Week 2012. San Diego, USA (2012年5月).
191. 武田宏司, 武藤修一, 大西俊介. グレリンシグナルの定価がGERDにおける胃排出定価に關与する. 第54回日本消化器病学会大会, 神戸市 (2012年10月).
192. 大西俊介, 武藤修一, 坂本直哉, 武田宏司. 新奇環境ストレスによる老齡動物の摂食低下における5-HT2C受容体の關与と六君子湯の効果. 第15回日本神経消化器病学会. 出雲 (2013年11月).
193. 大西俊介, 武藤修一, 武田宏司. ストレスによる老齡動物の摂食低下には5-HT2C受容体の機能亢進が關与する. 第21回日本消化器關連学会週間. 東京 (2013年10月).
194. 櫻木範明. 子宮頸がん征圧をめざした予防対策とQOL重視の手術治療. 第19回日本がん予防学会. 岐阜市 (2012年6月).
195. 木下優子. シンポジウム2 緩和医療を多角的に考える緩和ケアにおける漢方治療の現状と今後. 第4回日本緩和医療薬学会年会, 鹿児島市 (2010年9月).
196. 木下優子, 上田ゆき子, 矢久保修嗣. 漢方医学からみた慢性疼痛. 第40回慢性疼痛学会, 東京都 (2011年2月).
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)
1. 特許取得
1. 発明の名称: 悪液質改善剤 (10P016)
発明者: 乾明夫、浅川明弘、藤塚直樹
出願番号: 特願2010-274339
2. 発明の名称: Method of treating ischemia/reperfusion.

発明者：Higami Y, Okita N,
Matsushima S.

PCT/JP2012/052565

出願日：2012/01/27.

3. 発明の名称：アドレノメデュリン産
生増強剤

発明者：河野透¹⁾、金子篤²⁾、大宮
雄司²⁾

出願人：¹⁾独立行政法人旭川医科大学、²⁾株式会社ツムラ

特許登録番号：特許第5451403号

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
木下 優子	緩和ケアにおける漢方治療	産婦人科漢方研究会	産婦人科漢方研究のあゆみ No27 別刷	診断と治療社	東京	2010	1~4
河野透.	今日のがん治療を支える漢方薬のエビデンス	今津嘉宏	がん漢方	南山堂	東京	2012	16-25
掛地吉弘, 河野透.	EBMによるがん領域の漢方の使い方	掛地吉弘 河野透	EBMによるがん領域の漢方の使い方	ライフサイエンス	東京	2012	1-49

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Minami K, Sudo Y, Shiraishi S, Seo M, Uezono Y.	Analysis of the effects of anesthetics and ethanol on μ -opioid receptor.	J Pharmacol Sci	112 (4)	424-431	2010
Miyano K, Morioka N, Sugimoto T, Shiraishi S, Uezono Y, Nakata Y.	Activation of the neurokinin-1 receptor in rat spinal astrocytes induces Ca^{2+} release from IP_3 -sensitive Ca^{2+} stores and extracellular Ca^{2+} influx through TRPC3.	Neurochem Int	57 (8)	923-934	2010
Sudo Y, Matsuo K, Tetsuo T, Tsutsumi S, Okura M, Nakai J, Uezono Y.	Derived (mutated)-types of TRPV6 channels elicit greater Ca^{2+} influx into the cells than ancestral-types of TRPV6: Evidence from <i>Xenopus</i> oocytes and mammalian cell expression system.	J Pharmacol Sci	114 (3)	281-291	2010
鈴木雅美, 上園保仁.	鎮痛薬による臓器障害.	ペインクリニック	31 (9)	1177-1183	2010
今井哲司, 成田年, 富安志郎, 的場元弘, 木下浩之, 上園保仁, 葛巻直子, 鈴木勉.	オピオイドの薬理学.	Mebio	27 (8)	70-78	2010
上園保仁.	がん疼痛基礎医学研究—経験を科学に—.	がん患者と対症療法	21 (1)	78-79	2010
上園保仁.	がん対策推進基本計画に基づく緩和ケア推進・研究の今後.	がん患者と対症療法	21 (2)	164-169	2010
Ando Y, Hojo M, Kanaide M, Takada M, Sudo Y, Shiraishi S, Sumikawa K, Uezono Y.	<i>S</i> (+)-ketamine suppresses desensitization of γ -aminobutyric acid type B receptor-mediated signaling by inhibition of the interaction of γ -aminobutyric acid type B receptors with G protein-coupled receptor kinase 4 or 5.	Anesthesiology	114 (2)	401-411	2011
Minami K, Yokoyama T, Ogata J, Uezono Y.	The tramadol metabolite <i>O</i> -Desmethyl tramadol inhibits substance P-receptor functions expressed in <i>Xenopus</i> Oocytes.	J Pharmacol Sci	115 (3)	421-424	2011
Yokoyama T, Minami K, Sudo Y, Horishita T, Ogata J, Yanagita T, Uezono Y.	Effects of sevoflurane on voltage-gated sodium channel $Na_v1.8$, $Na_v1.7$, and $Na_v1.4$ expressed in <i>Xenopus</i> oocytes.	J Anesth	25 (4)	609-613	2011
Minami K, Sudo Y, Yokoyama T, Ogata J, Takeuchi M, Uezono Y.	Sevoflurane inhibits the μ -opioid receptor function expressed in <i>Xenopus</i> oocytes.	Pharmacology	88 (3-4)	127-132	2011

Imai S, Sudo Y, Nakamura A, Ozeki A, Asato M, Hojo M, Devi LA, Kuzumaki N, Suzuki T, <u>Uezono Y</u> , Narita M.	Possible involvement of β -endorphin in a loss of the coordinated balance of μ -opioid receptors trafficking processes by fentanyl.	Synapse	65 (9)	962-966	2011
Narita M, Imai S, Nakamura A, Ozeki A, Asato M, Rahmadi M, Sudo Y, Hojo M, <u>Uezono Y</u> , Devi LA, Kuzumaki N, Suzuki T.	Possible involvement of prolonging spinal μ -opioid receptor desensitization in the development of antihyperalgesic tolerance to μ -opioids under a neuropathic pain-like state.	Addict Biol		Epub ahead of print	2011
<u>上園保仁</u> .	がん患者の症状緩和のために-がん悪液質の予防、症状改善をめざす基礎医学研究.	がん患者と対症療法	22 (1)	58-63	2011
<u>上園保仁</u> .	がん患者の症状緩和に役立つ漢方薬-漢方薬の有効性を示す、臨床につながる基礎研究-.	がん患者と対症療法	22 (2)	140-146	2011
鈴木雅美, <u>上園保仁</u> .	非ステロイド性鎮痛薬およびアセトアミノフェンによる重篤な副作用.	Anesthesia 21 Century	13 (2)	57-61	2011
<u>上園保仁</u> , 須藤結香.	腸管神経叢に発現している消化管運動制御受容体と、それらをターゲットにした消化管機能改善薬.	医学のあゆみ	238 (10)	904-908	2011
宮野加奈子, <u>上園保仁</u> , 仲田義啓.	パクリタキセル誘発性末梢神経障害のメカニズム.	ペインクリニック	32 (10)	1491-1498	2011
Suzuki M, Narita M, Ashikawa M, Furuta S, Matoba M, Sasaki H, Yanagihara K, Terawaki K, Suzuki T, <u>Uezono Y</u> .	Changes in the melancortin receptors in the hypothalamus of a rat model of cancer cachexia.	Synapse	66 (8)	747-751	2012
Sudo Y, Hojo M, Ando Y, Takada M, Murata H, Kurata S, Kanaide M, Nishida N, <u>Uezono Y</u> .	GABA _B receptors do not internalize after baclofen treatment possibly due to lack of the β -arrestin association;a real-time visualization study.	Synapse	66 (9)	759-769	2012
<u>上園保仁</u> .	変わる「第二次がん対策推進基本計画」-第一次がん対策推進基本計画実践後の反省をもとに、がん体験者の視点を取り入れて-.	がん患者と対症療法	23 (1)	106-113	2012
Horishita T, Ueno S, Yanagihara N, Sudo Y, <u>Uezono Y</u> , Okura D, Sata T.	Inhibition by pregnenolone sulphate, a metabolite of the neurosteroid pregnenolone, of voltage-gated sodium channels expressed in <i>Xenopus</i> Oocytes.	J Pharmacol Sci	120 (1)	54-58	2012
Suzuki M, Narita M, Hasegawa M, Furuta S, Kawamata T, Ashikawa M, Miyano K, Yanagihara K, Chiwaki F, Ochiya T, Suzuki T, Matoba M, Sasaki H, <u>Uezono Y</u> .	The sensation of abdominal pain induced by peritoneal carcinomatosis is accompanied expression of substance P and by changes in the μ -opioid receptors in the spinal cord of mice.	Anesthesiology	117 (4)	847-856	2012
<u>上園保仁</u> .	ここまでわかってきた漢方薬の「なぜ効くの？」と「本当に効くの？」-科学的エビデンスに基づいた、がん患者のQOLを高める漢方薬の効果-.	がん患者と対症療法	23 (2)	186-192	2012
<u>Uezono Y</u> , Miyano K, Sudo Y, Suzuki M, Shiraishi S, Terawaki K.	A review of traditional Japanese medicines and their potential mechanism of action.	Curr Pharm Des	18 (31)	4839-4853	2012

Iwase S, Yamaguchi T, Miyaji T, Terawaki K, Inui A, Uezono Y.	The clinical use of Kampo medicines (traditional Japanese herbal treatments) for controlling cancer patients' symptoms in Japan: a national cross-sectional survey.	BMC Complement Altern Med	12	222	2012
Minami K, Uezono Y.	The recent progress in research on the effects of anesthetics and analgesics on G protein-coupled receptors.	J Anesthesia	27 (2)	284-292	2013
Yanagihara K, Takigahira M, Mihara K, Kubo T, Morimoto C, Morita Y, Terawaki K, Uezono Y.	Inhibitory effects of isoflavones on tumor growth and cachexia in newly established cachectic mouse models carrying human stomach cancers.	Nutr Cancer	65 (4)	578-589	2013
Narita M, Imai S, Nakamura A, Ozeki A, Asato M, Rahmadi M, Sudo Y, Hojo M, Uezono Y, Devi LA, Kuzumaki N, Suzuki T.	Possible involvement of prolonging spinal μ -opioid receptor desensitization in the development of antihyperalgesic tolerance to μ -opioids under a neuropathic pain-like state.	Addict Biol	18 (4)	614-622	2013
上園保仁.	日本の「統合医療」のゆくえ-『厚生労働省「統合医療」のあり方に関する検討会』による今後の指針は?-	がん患者と対症療法	24 (1)	74-82	2013
上園保仁.	モデル動物からみたcachexia (悪液質) .	栄養-評価と治療	30 (4)	272-274	2013
Motoyama N, Morita K, Kitayama T, Shiraishi S, Uezono Y, Nishimura F, Kanamatsu T, Dohi T.	Pain-releasing action of platelet-activating factor (PAF) antagonists in neuropathic pain animal models and the mechanisms of action.	Eur J Pain	17 (8)	1156-1167	2013
上園保仁.	がん患者の生活の質の向上をめざすがん疼痛およびがん悪液質症状改善のための研究-がん患者へ届ける基礎から臨床へのトランスレーショナルリサーチ-	がん患者と対症療法	24 (2)	158-164	2013
Terawaki K, Sawada Y, Kashiwase Y, Hashimoto H, Yoshimura M, Suzuki M, Miyano K, Sudo Y, Shiraishi S, Higami Y, Yanagihara K, Kase Y, Ueta Y, Uezono Y.	Novel cancer cachexia model by peritoneal dissemination-derived cell line established from human stomach cancer cell.	Am J Physiol Endocrinol Metab	306 (4)	E373-E387	2014
Okura D, Horishita T, Ueno S, Yanagihara N, Sudo Y, Uezono Y, Sata T.	The endocannabinoid anandamide inhibits voltage-gated sodium channels $Na_v1.2$, $Na_v1.6$, $Na_v1.7$ and $Na_v1.8$ in <i>Xenopus</i> Oocytes.	Anesth Analg	118 (3)	554-562	2014
Morita K, Shiraishi S, Motoyama N, Kitayama T, Kanematsu T, Uezono Y, Dohi T.	Palliation of bone cancer pain by antagonists of platelet-activating factor receptors.	PLOS ONE	9 (3)	e91746	2014
Fujii H, Hayashida K, Saitoh A, Yokoyama A, Hirayama S, Iwa T, Nakata E, Sudo Y, Uezono Y, Yamada M, Nagase H.	Novel delta opioid receptor agonists with oxazatricyclodecane structure.	ACS Med Chem Lett	5	368-372	2014
Horishita T, Yanagihara N, Ueno S, Sudo Y, Uezono Y, Okura D, Minami T, Kawasaki T, Sata T.	Neurosteroids allopregnanolone sulfate and pregnanolone sulfate have diverse effect on the α subunit of the neuronal voltage-gated sodium channels $Na_v1.2$, $Na_v1.6$, $Na_v1.7$ and $Na_v1.8$ in <i>Xenopus</i> Oocytes.	Anesthesiology	epub ahead of print		2014

Asakawa A, <u>Fujimiya M</u> , Nijima A, Fujino K, Kodama N, Sato Y, Kato I, Nanba H, Laviano A, Meguid MM, <u>Inui A</u> .	Parathyroid hormone-related protein has an anorexigenic activity via activation of hypothalamic urocortins 2 and 3.	Psychoneuroendocrinology	35 (8)	1178-1186	2010
Koyama KI, Yasuhara D, Nakahara T, Harada T, Uehara M, Ushikai M, Asakawa A, <u>Inui A</u> .	Changes in acyl ghrelin, des-acyl ghrelin, and ratio of acyl ghrelin to total ghrelin with short-term refeeding in female inpatients with restricting-type anorexia nervosa.	Horm Metab Res	42 (8)	595-598	2010
Fetissov SO, Laviano A, Kalra S, <u>Inui A</u> .	Update on ghrelin.	Int J Pept	2010	963501	2010
Cheng KC, Li YX, Asakawa A, <u>Inui A</u> .	The role of ghrelin in energy homeostasis and its potential clinical relevance (Review).	Int J Mol Med	26 (6)	771-778	2010
Perboni S, <u>Inui A</u> .	Appetite and gastrointestinal motility: role of ghrelin-family peptides.	Clin Nutr	29 (2)	227-234	2010
小木曾和磨, 浅川明弘, 乾明夫.	NPY 受容体 摂食調節ペプチドと摂食障害	医学のあゆみ	233 (9)	730-735	2010
小木曾和磨, 鮫島真理恵, 網谷東方, 濱田聡史, 浅川明弘, 乾明夫.	摂食障害, 特に神経性食欲不振症の基礎と臨床について	自律神経	47 (2)	66-79	2010
Terashi M, Asakawa A, Harada T, Ushikai M, Coquerel Q, Sinno MH, Déchelotte P, <u>Inui A</u> , Fetissov SO.	Ghrelin reactive autoantibodies in restrictive anorexia nervosa.	Nutrition	27 (4)	407-413	2011
Asakawa A, Ataka K, Fujino K, Chen CY, Kato I, <u>Fujimiya M</u> , <u>Inui A</u> .	Ghrelin family of peptides and gut motility.	J Gastroenterol Hepatol.	26 Suppl 3	73-74	2011
Fujitsuka N, Asakawa A, Uezono Y, Minami K, Yamaguchi T, Nijima A, Yada T, Maejima Y, Sedbazar U, Sakai T, Hattori T, Kase Y and <u>Inui A</u> .	Potential of ghrelin signaling attenuates cancer anorexia-cachexia and prolongs survival.	Transl Psychiatry	1	e23	2011
Fujitsuka N, Asakawa A, Amitani H, Hattori T, <u>Inui A</u> .	Efficacy of ghrelin in cancer cachexia: clinical trials and a novel treatment by rikkunshito.	Crit Rev Oncog	17 (3)	277-284	2012
Fujitsuka N, Asakawa A, Amitani H, <u>Fujimiya M</u> , <u>Inui A</u> .	Ghrelin and gastrointestinal movement.	Methods Enzymol	514	289-301	2012
<u>Inui A</u> .	Editorial: a new horizon of herbal medicines in anorexia-cachexia syndrome.	Curr Pharm Des	18 (31)	4747-4748	2012
Suzuki H, Asakawa A, Amitani H, Fujitsuka N, Nakamura N, <u>Inui A</u> .	Cancer cachexia pathophysiology and translational aspect of herbal medicine.	Jpn J Clin Oncol	43 (7)	695-705	2013
Suzuki H, Asakawa A, Amitani H, Nakamura N, <u>Inui A</u> .	Cancer cachexia--pathophysiology and management.	J Gastroenterol	48 (5)	574-594	2013
Amitani M, Asakawa A, Amitani H, <u>Inui A</u> .	Control of food intake and muscle wasting in cachexia.	Int J Biochem Cell Biol	45 (10)	2179-2185	2013
鈴木甫, 浅川明弘, 網谷東方, 乾明夫.	Cachexiaの診断、病態と治療.	栄養-評価と治療	30 (4)	268-271	2013
網谷真理恵, 網谷東方, 浅川明弘, 乾明夫.	Cachexiaの新しい治療.	栄養-評価と治療	30 (4)	293-297	2013
米田孝一, 浅川明弘, 乾明夫.	緩和ケアチームからみたcachexiaへのアプローチ.	栄養-評価と治療	30 (4)	298-300	2013

Suzuki H, Hashimoto H, Kawasaki M, Watanabe M, Otsubo H, Ishikura T, Fujihara H, Ohnishi H, Onuma E, Yamada-Okabe H, Takuwa Y, Ogata E, Nakamura T, <u>Ueta Y.</u>	Similar changes of hypothalamic feeding-regulating peptides mRNAs and plasma leptin levels in PTHrP-, LIF- secreting tumors-induced cachectic rats and adjuvant arthritic rats.	Int J Cancer	128 (9)	2215-2223	2011
Yokoyama T, Ohbuchi T, Saito T, Fujihara H, Minami K, Nagatomo T, <u>Uezono Y, Ueta Y.</u>	Allyl isothiocyanates and cinnamaldehyde potentiate miniature excitatory postsynaptic inputs in the supraoptic nucleus in rats.	Eur J Pharmacol	655 (1-3)	31-37	2011
Hashimoto H, <u>Ueta Y.</u>	Central effects of ghrelin, a unique peptide, on appetite and fluid/water drinking behavior.	Curr Protein Pept Sci	12 (4)	280-287	2011
Hashimoto H, <u>Uezono Y, Ueta Y.</u>	Pathophysiological function of oxytocin secreted by neuropeptides: A mini review.	Pathophysiology	19 (4)	293-298	2012
Yoshimura M, Matsuura T, Ohkubo J, Ohno M, Maruyama T, Ishikura T, Hashimoto H, Kakuma T, Yoshimatsu H, Terawaki K, <u>Uezono Y, Ueta Y.</u>	The gene expression of the hypothalamic feeding-regulating peptides in cisplatin-induced anorexic rats.	Peptides	46	13-19	2013
Yoshimura M, Ohkubo J, Katoh A, Ohno M, Ishikura T, Kakuma T, Yoshimatsu H, Murphy D, <u>Ueta Y.</u>	A c-fos-monomeric red fluorescent protein 1 fusion transgene is differentially expressed in rat forebrain and brainstem after chronic dehydration and rehydration.	J Neuroendocrinol	25 (5)	478-487	2013
Yoshimura M, Hagimoto M, Matsuura T, Ohkubo J, Ohno M, Maruyama T, Ishikura T, Hashimoto H, Kakuma T, Yoshimatsu H, Terawaki K, <u>Uezono Y, Toyohira Y, Yanagihara N, Ueta Y.</u>	Effects of food deprivation on the hypothalamic feeding-regulating peptides gene expression in serotonin depleted rats.	J Physiol Sci	64 (2)	97-104	2014
Yoshimura M, Matsuura T, Ohkubo J, Maruyama T, Ishikura T, Hashimoto H, Kakuma T, Mori M, <u>Ueta Y.</u>	A role of nesfatin-1/NucB2 in dehydration-induced anorexia.	Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol	epub ahead of print		2014
Yu D, Nagamura Y, Shimazu S, Naito J, Kaji H, Wada S, Honda M, Xu L, <u>Tsukada T.</u>	Caspase 8 and menin expressions are not correlated in human parathyroid tumors.	Endocr J	57 (9)	825-832	2010
Shimazu S, Nagamura Y, Yaguchi H, Ohkura N, <u>Tsukada T.</u>	Correlation of mutant menin stability with clinical expression of multiple endocrine neoplasia type 1 and its incomplete forms.	Cancer Sci	102 (11)	2097-2102	2011
Shimazu S, Shimatsu A, Yamada S, Inoshita N, Nagamura Y, Usui T, <u>Tsukada T.</u>	Resistance to dopamine agonists in prolactinoma is correlated with reduction of dopamine D2 receptor long isoform mRNA levels.	Eur J Endocrinol	166 (3)	383-390	2012
Nagamura Y, Yamazaki M, Shimazu S, Sano K, <u>Tsukada T, Sakurai A.</u>	A novel splice site mutation of the MEN1 gene identified in a patient with primary hyperparathyroidism.	Endocr J	59 (6)	523-530	2012
Nagamura Y, Yamazaki M, Shimazu S, <u>Tsukada T, Sakurai A.</u>	Application of an intracellular stability test of a novel missense menin mutant to the diagnosis of multiple endocrine neoplasia type 1.	Endocr J	59 (12)	1093-1098	2012

Horiuchi K, Okamoto T, Iihara M, <u>Tsukada T.</u>	An analysis of genotype- phenotype correlations and survival outcomes in patients with primary hyperparathyroidism caused by multiple endocrine neoplasia type 1: the experience at a single institution.	Surg Today	43 (8)	894-899	2013
<u>Fujimiya M</u> , Asakawa A, Ataka K, Chen CY, Kato I, <u>Inui A.</u>	Ghrelin, des-acyl ghrelin, and obestatin: regulatory roles on the gastrointestinal motility.	Int J Pept	2010	305192	2010
Chen CY, <u>Fujimiya M</u> , Laviano A, Chang FY, Lin HC, Lee SD.	Modulation of ingestive behavior and gastrointestinal motility by ghrelin in diabetic animals and humans.	J Chin Med Assoc	73 (5)	225-229	2010
Atsuchi K, Asakawa A, Ushikai M, Ataka K, Tanaka R, Kato I, <u>Fujimiya M</u> , Inui A.	Centrally administered neuromedin s inhibits feeding behavior and gastroduodenal motility in mice.	Horm Metab Res	42 (8)	535-538	2010
Brevet M, Kojima H, Asakawa A, Atsuchi K, Ushikai M, Ataka K, Inui A, Kimura H, Sevestre H, <u>Fujimiya M.</u>	Chronic foot-shock stress potentiates the influx of bone marrow-derived microglia into hippocampus.	J Neurosci Res	88 (9)	1890-1897	2010
Nozu T, Kumei S, Takakusaki K, Ataka K, <u>Fujimiya M</u> , Okumura T.	Central orexin-A increases colonic motility in conscious rats.	Neurosci Lett	498 (2)	143-146	2011
<u>Fujimiya M</u> , Ataka K, Asakawa A, Chen CY, Kato I, <u>Inui A.</u>	Ghrelin, des-acyl ghrelin and obestatin on the gastrointestinal motility.	Peptides	32 (11)	2348-2351	2011
Furness JB, Hunne B, Matsuda N, Yin L, Russo D, Kato I, <u>Fujimiya M</u> , Patterson M, McLeod J, Andrews ZB, Bron R.	Investigation of the presence of ghrelin in the central nervous system of the rat and mouse.	Neuroscience	193	1-9	2011
<u>Fujimiya M</u> , Ataka K, Asakawa A, Chen CY, Kato I, <u>Inui A.</u>	Regulation of gastroduodenal motility: acyl ghrelin, des-acyl ghrelin and obestatin and hypothalamic peptides.	Digestion	85 (2)	90-94	2011
Ataka K, Nagaishi K, Asakawa A, <u>Inui A</u> , <u>Fujimiya M.</u>	Alteration of antral and proximal colonic motility induced by chronic psychological stress involves central urocortin 3 and vasopressin in rats.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	303 (4)	519-528	2012
<u>Fujimiya M</u> , Ataka K, Asakawa A, Chen CY, Kato I, <u>Inui A.</u>	Regulation of gastroduodenal motility: acyl ghrelin, des-acyl ghrelin and obestatin and hypothalamic peptides.	Digestion	85 (2)	90-94	2012
Ataka K, Asakawa A, Nagaishi K, Kaimoto K, Sawada A, Hayakawa Y, Tatzawa R, <u>Inui A</u> , <u>Fujimiya M.</u>	Bone marrow-derived microglia infiltrate into the paraventricular nucleus of chronic psychological stress-loaded mice.	PLoS One	8 (11)	e81744	2013
Chiba H, Ataka K, Iba K, Nagaishi K, Yamashita T, <u>Fujimiya M.</u>	Diabetes impairs the interactions between long-term hematopoietic stem cells and osteopontin-positive cells in the endosteal niche of mouse bone marrow.	Am J Physiol Cell Physiol	305 (7)	C693-C703	2013
Nagaishi K, Ataka K, Echizen E, Arimura Y, <u>Fujimiya M.</u>	Mesenchymal stem cell therapy ameliorates diabetic hepatocyte damage in mice by inhibiting infiltration of bone marrow-derived cells.	Hepatology	59 (5)	1816-1829	2014
Matsushima S, Okita N, Oku M, Nagai W, Kobayashi M, <u>Higami Y.</u>	An Mdm2 antagonist, Nutlin-3a, induces p53-dependent and proteasome-mediated poly(ADP-ribose) polymerase1 degradation in mouse fibroblasts.	Biochem Biophys Res Commun	407 (3)	557-561	2011

Uchiumi F, Watanabe T, Hasegawa S, Hoshi T, <u>Higami Y</u> , Tanuma S.	The effect of resveratrol on the Werner syndrome RecQ helicase gene and telomerase activity.	Curr Aging Sci	4 (1)	1-7	2011
<u>樋上賀一</u> .	脂質代謝の変化からみたカロリー制限による抗老化・寿命延長作用のメカニズム.	心身医学	52 (3)	194-200	2012
Nagai W, Okita N, Matsumoto H, Okado H, Oku M, <u>Higami Y</u> .	Reversible induction of PARP1 degradation by p53-inducible cis-imidazoline compounds.	Biochem Biophys Res Commun	421 (1)	15-19	2012
Okita N, Hayashida Y, Kojima Y, Fukushima M, Yuguchi K, Mikami K, Yamauchi A, Watanabe K, Noguchi M, Nakamura M, Toda T, <u>Higami Y</u> .	Differential responses of white adipose tissue and brown adipose tissue to caloric restriction in rats.	Mech Ageing Dev	133 (5)	255-266	2012
<u>藤井波木</u> , <u>沖田直之</u> , <u>樋上賀一</u> .	カロリー制限による白色脂肪組織を中心とした脂質代謝の活性化.	基礎老化研究	36 (2)	31-38	2012
Mikami K, Okita N, Tokunaga Y, Ichikawa T, Okazaki T, Takemoto K, Nagai W, Matsushima S, <u>Higami Y</u> .	Autophagosomes accumulate in differentiated and hypertrophic adipocytes in a p53-independent manner.	Biochem Biophys Res Commun	427 (4)	758-763	2012
Matsuo T, Miyata Y, Sagara Y, <u>Higami Y</u> , Tobu S, Matsuo M, Noguchi M, Shimokawa I, Kanetake H, Sakai H.	Renoprotective effects of telmisartan after unilateral renal ablation in rats.	Int J Nephrol Renovasc Dis	6	207-214	2013
Okita N, Yoshimura M, Watanabe K, Minato S, Kudo Y, <u>Higami Y</u> , Tanuma S.	CHK1 cleavage in programmed cell death is intricately regulated by both caspase and non-caspase family proteases.	Biochim Biophys Acta	1830 (1)	2204-2213	2013
Chujo Y, Fujii N, Okita N, Konishi T, Narita T, Yamada A, Haruyama Y, Tashiro K, Chiba T, Shimokawa I, <u>Higami Y</u> .	Caloric restriction- associated remodeling of rat white adipose tissue: effects on the growth hormone/insulin-like growth factor-1 axis, sterol regulatory element binding protein-1, and macrophage infiltration.	Age (Dordr)	35 (4)	1143-1156	2013
<u>土屋拓郎</u> , <u>沖田直之</u> , <u>須藤結香</u> , <u>樋上賀一</u> .	カロリー制限が白色脂肪組織における脂肪酸合成に及ぼす影響の経時的解析.	基礎老化研究	37 (3)	29-31	2013
<u>須藤結香</u> , <u>沖田直之</u> , <u>樋上賀一</u> .	カロリー制限による抗老化・寿命延伸効果のメカニズム ～脂肪組織のリモデリングと脂質代謝の活性化～.	自律神経	50 (3)	192-195	2013
Okita N, Ishikawa N, Mizunoe Y, Oku M, Nagai W, Suzuki Y, Matsushima S, Mikami K, Okado H, Sasaki T, <u>Higami Y</u> .	Inhibitory effect of p53 on mitochondrial content and function during adipogenesis.	Biochem Biophys Res Commun	446 (1)	91-97	2014
<u>河野透</u> , <u>上園保仁</u> .	腸管血流からみた大建中湯の役割 アメリカ臨床治験薬TU-100になった理由.	医学のあゆみ	241 (2)	163-169	2012
<u>河野透</u> .	消化器疾患に対する漢方医療の実際 イレウス.	臨床消化器内科	28 (2)	189-196	2013
<u>Kono T</u> , Kaneko A, Omiya Y, Ohbuchi K, Ohno N, Yamamoto M.	Epithelial transient receptor potential ankyrin 1 (TRPA1)-dependent adrenomedullin up-regulates blood flow in rat small intestine.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	304 (4)	428-436	2013

<u>Kono T</u> , Hata T, Morita S, Munemoto Y, Matsui T, Kojima H, Takemoto H, Fukunaga M, Nagata N, Shimada M, Sakamoto J, Mishima H.	Goshajinkigan Oxaliplatin Neurotoxicity Evaluation (GONE): a phase 2, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of goshajinkigan to prevent oxaliplatin-induced neuropathy.	Cancer Chemo Pharm	72 (6)	1283-1290	2013
Munekage M, Ichikawa K, Kitagawa H, Uehara H, Watanabe J, <u>Kono T</u> , Hanazaki K.	Population pharmacokinetic analysis of daikenchuto, a traditional Japanese medicine (kampo) in Japanese and US health volunteers.	Drug Metab Dispos	41 (6)	1256-1263	2013
Sakatani A., Fujiya M, Ito T, Inaba Y, Ueno N, Kashima S, Tominaga M, Moriichi K, Okamoto K, Tanabe H, Ikuta K, Ohtake T, <u>Kono T</u> , Furukawa H, Ashida T, Kohgo Y.	Infliximab extends the duration until the first surgery in patients with Crohn's disease.	BioMed Res Int	2013	879491	2013
<u>河野透</u> , 武田宏司, <u>上園保仁</u> , 島田光生.	消化器外科と漢方.	消化器外科	36 (9)	1299-1305	2013
<u>河野透</u> , 武田宏司, <u>上園保仁</u> .	外科医のためのKampo EBM UP-TO DATE 抗癌剤の副作用と漢方薬.	日本外科学会雑誌	114 (5)	251-255	2013
前田耕太郎, 勝野秀稔, <u>河野透</u>	外科医のためのKampo EBM UP-TO DATE 周術期における大建中湯の有用性と作用メカニズム	日本外科学会雑誌	114 (5)	232-235	2013
<u>河野透</u> , <u>上園保仁</u> , 武田宏司, 笠井章次, 佐藤宏彦, 島田光生	オキサリプラチンによるしびれ-牛車腎気丸	臨床外科	68 (12)	1319-1323	2013
Kaneko A, <u>Kono T</u> , Miura N, Tsuchiya N, Yamamoto M.	Preventive effect of TU-100 on a type-2 model of colitis in mice: Possible involvement of enhancing adrenomedullin in intestinal epithelial cells.	Gastroenterol Res Pract	2013	384057	2013
<u>Kono T</u> , Takeda H, Shimada M, Kase Y, <u>Uezono Y</u> .	Novel therapeutics for adverse effects of antitumor therapy: the promise of multicomponent, traditional Japanese herbal remedies.	J Carcinog Mutagen	epub ahead of print		2014
<u>Kono T</u> , Kaneko A, Matsumoto C, Miyagi C, Ohbuchi K, Mizuhara Y, Miyano K, <u>Uezono Y</u> .	Multitargeted effects of hangeshashinto for treatment of chemotherapy-induced oral mucositis on inducible prostaglandin E2 production in human oral keratinocytes.	Integr Cancer Ther	epub ahead of print		2014
Shimada M, Morine Y, Nagano H, Hatano E, Kaiho T, Miyazaki M, <u>Kono T</u> , Kamiyama T, Morita S, Sakamoto J, Kusano M, Saji S, Kanematsu T, Kitajima M.	Effect of TU-100, a traditional Japanese medicine, administered after hepatic resection in patients with liver cancer: a multi-center, randomized, double-blind, placebo-controlled phase II trial (JFMC40-1001).	Int J Clin Oncol	epub ahead of print		2014
Ueno N, Hasebe T, Kaneko A, Yamamoto M, Fujiya M, Kohgo Y, <u>Kono T</u> , Wang CZ, Yuan CS, Bissonnette M, Chang EB, Musch MW.	TU-100 (daikenchuto) and ginger ameliorate anti-CD3 antibody induced T cell-mediated murine enteritis: microbe-independent effects involving Akt and NF- κ B suppression.	PloS ONE	epub ahead of print		2014
Mizuno K, <u>Kono T</u> , Suzuki Y, Miyagi C, Omiya Y, Miyano K, Kase Y, <u>Uezono Y</u> .	Goshajinkigan, a traditional Japanese medicine, prevents oxaliplatin-induced acute peripheral neuropathy by suppressing functional alteration of TRP channels in rat.	J Pharmacol Sci	125	91-98	2014

Aoyama T, Nishikawa K, Takiguchi N, Tanabe K, Imano M, Fukushima R, Sakamoto J, Oba MS, Morita S, <u>Kono T</u> , Tsuburaya A.	Double-blind, placebo-controlled, randomized phase II study of TJ-14 (hangeshashinto) for gastric cancer chemotherapy-induced oral mucositis.	Cancer Chemother Pharmacol	73 (5)	1047-1054	2014
Watanabe K, Karasaki H, Mizukami Y, Kawamoto T, <u>Kono T</u> , Imai K, Einama T, Taniguchi M, Kohgo Y, Furukawa H.	Cyst infection of intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas: management of a rare complication: report of 2 cases.	Pancreas	43 (3)	478-481	2014
Takeda H, Muto S, Hattori T, Sadakane C, Tsuchiya K, Katsurada T, Ohkawara T, Oridate N, <u>Asaka M</u> .	Rikkunshito ameliorates the aging-associated decrease in ghrelin receptor reactivity via phosphodiesterase III inhibition.	Endocrinology	151 (1)	244-252	2010
Hayakawa S, Shiratori S, Yamato H, Kameyama T, Kitatsuji C, Kashigi F, Goto S, Kameoka S, Fujikura D, Yamada T, Mizutani T, Kazumata M, Sato M, Tanaka J, <u>Asaka M</u> , Ohba Y, Miyazaki T, Imamura M, Takaoka A.	ZAPS is a potent stimulator of signaling mediated by the RNA helicase RIG-I during antiviral responses.	Nat Immunol	12 (1)	37-44	2010
Kato M, Kamada G, Yamamoto K, Nishida U, Imai A, Yoshida T, Ono S, Nakagawa M, Nakagawa S, Shimizu Y, <u>Asaka M</u> .	Lafutidine prevents low-dose aspirin and loxoprofen induced gastric injury: a randomized, double-blinded, placebo controlled study.	J Gastroenterol Hepatol	25 (10)	1631-1635	2010
Mizutani T, Kondo T, Darmanin S, Tsuda M, Tanaka S, Tobiume M, <u>Asaka M</u> , Ohba Y.	A novel FRET-based biosensor for the measurement of BCR-ABL activity and its response to drugs in living cells.	Clin Cancer Res	16 (15)	3964-3975	2010
Yuuki S, Komatsu Y, Fuse N, Kato T, Miyagishima T, Kudo M, Watanabe M, Tateyama M, Kunieda Y, Wakahama O, Sakata Y, <u>Asaka M</u> .	Modified-irinotecan/fluorouracil/levoleucovorin therapy as ambulatory treatment for metastatic colorectal cancer: results of phase I and II studies.	Clin Drug Investig	30 (4)	243-249	2010
武田宏司, 武藤修一, 大西俊介, 浅香正博.	機能性ディスぺプシアおよび食欲不振に対する漢方治療	日本消化器病学会雑誌	107 (10)	1586-1591	2010
Sadakane C, Muto S, Nakagawa K, Ohnishi S, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, <u>Asaka M</u> , Takeda H.	10-gingerol, a component of Rikkunshito, improves cisplatin-induced anorexia by inhibiting acylated ghrelin degradation.	Biochem Biophys Res Commun	412 (3)	506-511	2011
Saegusa Y, Takeda H, Muto S, Nakagawa K, Ohnishi S, Sadakane C, Nahata M, Hattori T, <u>Asaka M</u> .	Decreased plasma ghrelin contributes to anorexia following novelty stress.	Am J Physiol Endocrinol Metab	301 (4)	E685-E696	2011

Miki K, Maekura R, Nagaya N, Nakazato M, Kimura H, Murakami S, <u>Ohnishi S</u> , Hiraga T, Miki M, Kitada S, Yoshimura K, Tateishi Y, Arimura Y, Matsumoto N, Yoshikawa M, Yamahara K, Kangawa K.	Ghrelin treatment of cachectic patients with chronic obstructive pulmonary disease: a multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial.	PLoS One	7 (5)	e35708	2012
Nahata M, Muto S, Oridate N, <u>Ohnishi S</u> , Nakagawa K, Sadakane C, Saegusa Y, Hattori T, <u>Asaka M</u> , Takeda H.	Impaired ghrelin signaling is associated with gastrointestinal dysmotility in rats with gastroesophageal reflux disease.	Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol	303 (1)	G42-G53	2012
Takeda H, Muto S, Nakagawa K, <u>Ohnishi S</u> , <u>Asaka M</u> .	Rikkunshito and ghrelin secretion.	Curr Pharm Des	18 (31)	4827-4838	2012
Takeda H, Muto S, Nakagawa K, <u>Ohnishi S</u> , Sadakane C, Saegusa Y, Nahata M, Hattori T, <u>Asaka M</u> .	Rikkunshito as a ghrelin enhancer.	Methods Enzymol	514	333-351	2012
Nahata M, Muto S, Nakagawa K, <u>Ohnishi S</u> , Sadakane C, Saegusa Y, Iizuka S, Hattori T, <u>Asaka M</u> , Takeda H.	Serotonin 2C receptor antagonism ameliorates novelty-induced hypophagia in aged mice.	Psychoneuroendocrinology	38 (10)	2051-2064	2013
Yamada C, Saegusa Y, Nakagawa K, <u>Ohnishi S</u> , Muto S, Nahata M, Sadakane C, Hattori T, Sakamoto N, Takeda H.	Rikkunshito, a Japanese Kampo medicine, ameliorates decreased feeding behavior via ghrelin and serotonin 2B receptor signaling in a novelty stress murine model.	BioMed Res Int	2013	792940	2013
Takeda H, Nakagawa K, Okubo N, Nishimura M, Muto S, <u>Ohnishi S</u> , Sakamoto N, Hosono H, <u>Asaka M</u> .	Pathophysiologic basis of anorexia: focus on the interaction between ghrelin dynamics and the serotonergic system.	Biol Pharm Bull	36 (9)	1401-1405	2013
武田宏司, 武藤修一, 大西俊介, 河野透.	抗癌剤に伴うcachexiaとその治療.	栄養-評価と治療	30 (4)	283-286	2013
Hosaka M, Watari H, Kato T, Odagiri T, Konno Y, Mitamura T, Kikawa S, Suzuki Y, <u>Sakuragi N</u> .	Clinical efficacy of paclitaxel/cisplatin as an adjuvant chemotherapy for patients who underwent radical hysterectomy and systematic lymphadenectomy.	J Surg Oncol	105 (6)	612-616	2012
Watari H, Hosaka M, Wakui Y, Nomura E, Hareyama H, Tanuma F, Hattori R, Azuma M, Kato H, Takeda N, Ariga S, <u>Sakuragi N</u> .	A prospective study on the efficacy of octreotide in the management of malignant bowel obstruction in gynecologic cancer.	Int J Gynecol Cancer	22 (4)	692-696	2012
Dong P, Karaayvazb M, Jiac N, Kaneuchi M, Hamada J, Watari H, Sudo S, Ju J, <u>Sakuragi N</u> .	Mutant p53 gain-of-function induces epithelial-mesenchymal transition through modulation of the miR-130b-ZEB1 axis.	Oncogene	32 (27)	3286-3295	2012